

平成 20 年 5 月 13 日
日本銀行盛岡事務所

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、足踏み感がやや強まっている。

最終需要の動向をみると、公共投資と住宅投資が前年を下回って推移しているほか、設備投資が前年を下回る計画となっている。この間、個人消費は横這い圏内の動きとなっている。

こうした中、生産は高水準の域にあるものの、このところ低下傾向にあり、雇用情勢もやや弱めの動きとなっている。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、総じてみれば横這い圏内で推移している。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、3 月は曜日構成や天候に恵まれたこともあり、春物衣料品を中心に動意が見られたが、4 月入り後は再び失速、前年を下回って推移している。スーパーでは、食料品等の値上げが広がる中で、割安商品のまとめ買いや割安感のあるプライベートブランド商品へのシフトなどが見られており、ほぼ前年並みの動きとなっている。

(家電量販店売上高)

家電販売では、冷蔵庫、洗濯機などの白物家電は伸び悩んでいるが、ブルーレイを中心に DVD が好調なほか、薄型テレビやデジカメも順調に推移しており、全体でも前年を上回って推移している。

(乗用車新車登録台数)

3 月の乗用車新車登録台数（軽自動車を含む）は、新車投入効果から普通車が引き続き前年を上回って推移しているうえ、小型車も前年を上回ったことから、全体では 5 ヶ月ぶりに前年を上回った。

(2) 公共投資

4月の公共工事請負金額は、道路関係工事が落ち込んだこともあり、4ヶ月ぶりに前年を下回った。

(3) 住宅投資

3月の新設住宅着工戸数は、分譲マンションが依然低調なこともあり、弱めの動きとなっている。

(4) 設備投資

2008年度の設備投資(3月短観調査結果)をみると、海外経済の減速懸念や競争激化による収益環境の悪化などから、総じて慎重な計画となっている(全産業ベース、前年度比:2007年度+7.4% 2008年度 9.3%)。

3. 生産動向

生産は高水準の域にあるものの、このところ低下傾向にある。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、米国のパソコン、携帯電話需要の減少などを背景に、操業度を引き下げる動きが散見される。

(輸送機械)

完成車は、米国の低所得者層の需要落ち込みなどから、操業度を引き下げている。自動車部品は、新興国向けの需要好調を背景に高操業が続いている。

(一般機械)

建設機械部品は、新興国向けを中心に堅調に推移しているが、半導体価格の下落から半導体製造装置が生産レベルを引き下げているほか、自動車関連向け工作機械も米国の受注鈍化などから生産を多少抑制している。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車向け需要に支えられ、高操業を続けている。一方、窯業・土石、木材・木製品は、減産体制を続けている。食料品は、清涼飲料が堅調に推移しているが、水産缶詰が原材料コストの上昇などから減少傾向にあり、全体では横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、3月の有効求人倍率（季節調整値）は0.65倍（前月：0.66倍）と2ヶ月連続して低下した。新規求人倍率（同上）は1.02倍（前月：1.12倍）と、4ヶ月ぶりに低下した。

この間、雇用者所得は、常用雇用者数が前年を下回って推移していることから、前年割れの状態が続いている。

5. 企業倒産

4月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数13件（前年同月5件）、負債総額140億10百万円（同6億65百万円）となった。

負債総額10億円以上の大型倒産が3件発生したことから、単月では過去3番目の金額。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、法人預金や公金預金が前年を下回っているものの、個人預金が増加していることから、全体では前年を上回って推移している。

一方、貸出動向をみると、法人向けが低調なうえ、住宅ローンも頭打ちになっていることから、全体では前年を下回って推移している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/
